

「江戸東京」から広がる個人リポジトリ

堀江 幸司 (東京女子医科大学 中央写真室)

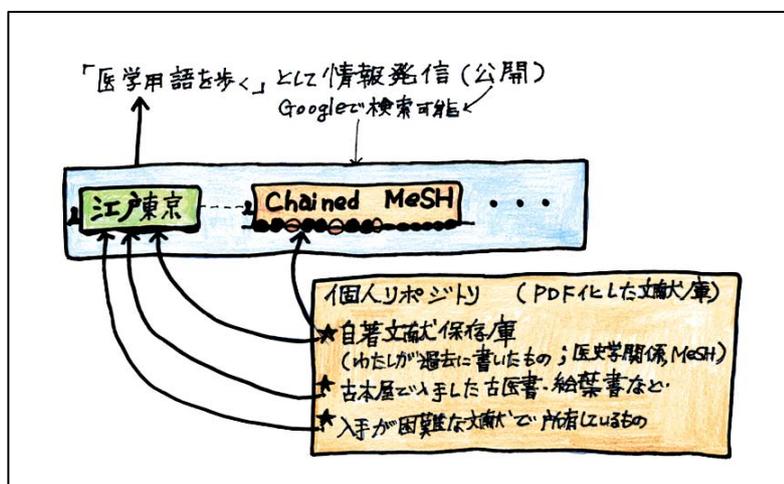
★「[江戸東京](#)」(江戸東京医史学散歩)は、散歩を兼ねて、巡った医史跡のことを、関連文献を引用しながら書いています。わたしは、駒込(江戸時代の染井村・染井吉野桜の発祥地)に住んでいるので、日常の散歩の地域は、本郷・谷中(やなか)・白山(はくさん)・上野など、本郷通りや神田神保町の周辺です。「江戸東京」はシソ研のHP「[医学用語を歩く](#)」のコンテンツのひとつです。

★東京都内にある医史跡が中心ですが、本郷に所縁があり、太田正雄(木下壺太郎)(東大皮膚科教授・詩人)の紹介で、東大青山内科に入院したこともある石川啄木の故郷の[好摩](#)(こうま)(盛岡近郊)や、染井霊園にお墓のある水原豊(秋桜子)(昭和医専教授・俳人)の句碑を訪ねて京都の[光悦寺](#)などに足をのびしたこともありました。

★昨年の本大会で、筑波大学の[松林麻実子先生の講演](#)をお聴きして、公開されているホームページは、意外にGoogleで検索されていることを知り、史実を追う「江戸東京」には、個人リポジトリ的な発想を入れておいた方が、読んでくださる方に、より便利ではないか、と思いはじめました。古い文献などは、いくら引用しておいても、その現物に辿りつくのは、なかなか困難なことだからです。

★新しい形で、情報発信しながら、過去に『医学図書館』誌に書いたエッセイなどで、参考になりそうなものは、PDFファイル化して、「江戸東京」から、リンクを張り、参照できるようにしておけば、Googleで検索が可能となり、より有意義な「江戸東京」になるのではないかな。そんな思いから、機関リポジトリには登録できない自著論文(エッセイ)のほかに、収集した古医書(文献)や絵葉書などを「個人リポジトリ(個人文献保管庫)」として保存・公開する方法を考えてみました。

★「江戸東京」[第166回](#)(緒方洪庵墓：高林寺内の移転と甕棺)では、洪庵のお墓に関連して、かつて発表した「緒方洪庵生誕地」を[PDF化](#)して、リンクさせてみました。しばらくして、「緒方収二郎」(緒方洪庵の第十二子・六男：森鷗外の『雁』の岡田のモデルといわれる)をキーワードとしてGoogleで検索したところ、この論文がヒットしました。やはり、個人的にでも、文献をPDF化し必要に応じて、公開することは、医史学研究には、有効のように思われます。



緒方洪庵